

御室塚古墳(加須市)

みむろづか

樋遣川(ひやりかわ)古墳群

ここは御室神社



「村社 御室社」とある



御室神社(御室社)は古墳の上に建っており、これが御室塚古墳(諸塚(もろづか)とも呼ばれる)である



標柱には加須市指定史跡御室塚/昭和31年4月16日指定とある



樋遣川古墳群には「穴咋塚、諸塚、石子塚、稲荷塚、浅間塚、宝塚、宮西塚」の七つの塚があり「樋遣川の七塚」と呼ばれたという



現在残っているのは諸塚(御室塚)、稲荷塚、浅間塚の三塚のみ/説明板には御諸塚(みもろづか)古墳と記されている



加須市指定 史跡

御諸塚古墳

昭和三十一年四月 指定

御諸塚古墳は径四〇メートル、高さ五メートルを測る円墳で、墳頂部に御室社を祀る。榎遺川古墳群の中では最大規模の古墳で御室塚古墳ともいう。

この御諸塚古墳を含む榎遺川古墳群一帯は、『新編武蔵風土記稿』の榎遺川村の項に「穴塚・諸塚・石子塚・稲荷塚・浅間塚・宝塚・宮西塚、以上の塚を榎遺川の七塚と云、何れも高さ六、七尺」とあり江戸時代には、七つの塚があったことが知られている。現在では、水害や開墾のために墳丘を削り取られ御諸塚、浅間塚、稲荷塚の三基の古墳だけが残っている。

御諸塚古墳は上毛野国(現在の群馬県)の国造(有力な豪族)である御諸別王の墳墓であるという伝えがあるが、古墳の年代と御諸別王の年代にずれがあったり、他県にも同じい伝えのある古墳がいくつもあり、そのまま御諸別王の墳墓と比定することはできないが、有力者の古墳であることは推定できる。

平成二〇年三月

加須市教育委員会

南側から見た参道



こんなものもあった







隨身門/この後ろが御室塚古墳





隨身門の左手を見る/墳丘の裾が見える



隨身門の右手を見る/墳丘の裾が見える



樋遣川古墳群の中では最大規模の古墳である/円墳/古墳時代後期の築造とされる



境頂の御室社



拝殿



拝殿左手を見る



拝殿右手を見る





奥が本殿



本殿は江戸時代前期の造営とされる/流造り



背面の法面を見る







境丘左手前にある末社の八幡雷電合殿社



墳丘の裾が見える



墳丘を見上げる



裾の足下はこんな感じ



池となっている



水堀(周濠)であったのだろうか



さて、東側の道路から墳丘を見てみる



東側から墳丘を見たところ/木々に覆われている



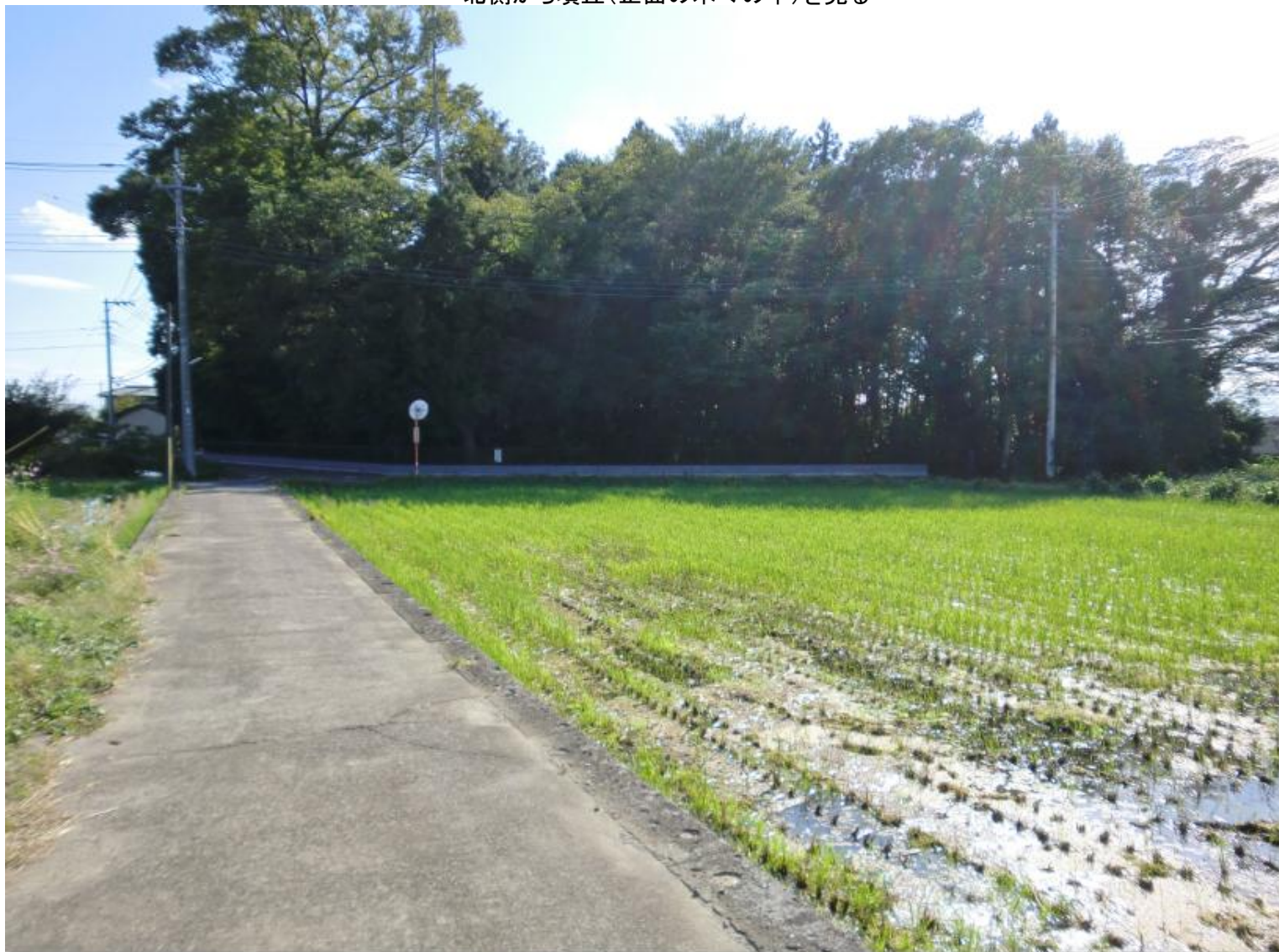
北方向へ進むとこちら側にも水堀がある



木々の間に御室社が見え隠れする



北側から墳丘(正面の木々の中)を見る



西側から墳丘(正面の木々の中)を見る



さて、東側のすぐ隣に(伝承)宝徳寺跡があった/この辺り一帯



左手前に標柱が立つ



「御室神社の別当を勤めるために、ここに宝徳寺が建立されたといわれている」と記されている



参考ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3i-aid/kofun/saitama/69_kazo/hivari1.html

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A8%8B%E9%81%A3%E5%B7%9D%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4>

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/kazo_mimuro/

<http://blog.goo.ne.jp/kuni-furutone118/e/b01b142d5e5164bddb57ed3435052df7>

<http://www.ipn-hayashi.com/cgi-bin/pdetail.cgi?mode=&title0=御諸塚古墳&choice0=k1401320&printer=&photoview=51&index=1836&brower=99&colu=&font=&screen=240&life=>

